

令和2年第1回下川町議会定例会一般質問（要旨）

質問番号	氏 名	質 問 事 項
1	中 田 豪之助	<p>(一括)                      コロナ以降の町づくりについて</p>
<p>                             コロナウイルスは世界で感染拡大し、ウイルス・症状についても日に日に新しい発見が続き長期化する様相である。日経・NYダウ・原油も下落、リーマン以上の世界恐慌の始まりとも言われている。                         </p> <p>                             本町では耕種農家に毎年来ている中国人実習生が来られるか見通しが立っていない。人出不足を外国人で補っており、代替労働力を近隣、国内で探すのは困難である。                         </p> <p>                             また、宿泊・飲食・学校なども影響は大きく、今までの常識が通用しなくなってきている。                         </p> <p>                             しかし、ただ座してはジリ貧となるだけで、ピンチの中の僅かなチャンスに活路を見出すべきである。テレワークや子供の休校により、都会の満員電車、超濃厚接触の日常が異常だったと気付く人が増えており、都会とは真逆の空気と水が綺麗で人の少ない下川町に一時的でも暮らしてみたいと考える人も出てくると思われる。また、本町の発信の仕方次第で、移住者にも条件を付けて面接、選考できるような日が来るかもしれない。                         </p> <p>                             町長の見解を伺いたい。                         </p> <p>----- メ モ -----</p>		

質問番号	氏 名	質 問 事 項
2	中 田 豪之助	(一括) 「まちおさめ」について
<p>地域が「かつての賑わいを取り戻す」というのは非現実的で、目標にするべきは「持続可能で人権が守られる地域」ではないか。</p> <p>人口増加＝地域発展といった従来の「人口増加型パラダイム」ではなく、人口が減少することを前提として少ない人口でも地域の人々が生き生き暮らせるシステムが肝要である。</p> <p>マチが元気ならマチは生き残れる。マチを構成する家族、更には個人をどうやって元気にできるかが鍵である。</p> <p>町長の見解を伺いたい。</p> <p>----- メ モ -----</p>		

質問番号	氏 名	質 問 事 項
3	我孫子 洋 昌	<p>(一括) 生産施設における新たな会計年度任用職員制度の運用について</p>
<p>生産施設において新たに導入される「会計年度任用職員」制度のうち、パートタイム会計年度任用職員について、実際の運用における課題について町長の見解を伺う。</p> <p>(1) 条例案の議案説明の際に、「生産施設」の職員は期末手当の支給対象としない方針とのことだったが、条文ではなく運用において生産施設を区別するのは可能か。</p> <p>(2) 生産施設のみを設定するのは「民間移行を踏まえて」との説明があったが、なぜ民間移行を考えると「期末手当を支給しない」となるのか。</p> <p>----- メ モ -----</p>		

質問番号	氏 名	質 問 事 項
4	我孫子 洋 昌	(一括) 職員の適正配置と職場環境の維持について
<p>「働き方改革」が全国的な課題となり、人口減少社会で担い手確保が喫緊の課題となっている本町では、施設の人員を確保するのが難しい状況にあり、介護や医療、福祉関係の人材募集が日常的に行われている。</p> <p>一方、事務職においても、定年を前に退職する職員が続出しており、人材確保を行うためには魅力的な職場環境づくり、若しくは少人数で効率的に業務が遂行される仕組みを早期に導入する必要があると考えるが、次の点について町長の見解を伺う。</p> <p>(1) 平成 27 年度以降、中途退職した職員の実数について</p> <p>(2) 適材適所を進めてきたと認識しているのか。</p> <p>(3) キャリア採用や中途採用など、経験値のある人材確保への取り組みを行う予定はあるのか。</p> <p>(4) 現在直営で実施している生産施設や福祉施設の業務委託や民間移行の予定はあるのか。</p> <p>(5) 業務効率化に向けて、定期的な手続きや事務処理の自動化を検討する予定はあるのか。</p> <p>----- メ モ -----</p>		

質問番号	氏 名	質 問 事 項
5	春 日 隆 司	<p>(一括) 「信頼回復を求める決議」に対する責任の明確化について</p>
<p>町長は、企業との連携協定について「自らの権限と責任の下、政治判断により締結する。」と公言している。また、宿泊研修交流施設の赤字運営では「議会からの付帯決議などは真摯に受け止め、執行者責任を明確にさせる。」として自らの給料減額を行った。町民にも非常に分かりやすく理解しやすい政治判断である。</p> <p>こうした中、さきの第4回定例会において、連携企業からの協定破棄の通知に伴う菓子製造事業の中止により、町民説明会后、町長に信頼失墜などの重い責任を問う、町政初の「行政執行の信頼回復を求める決議」が全会一致で可決され対処が求められている。</p> <p>そこで、次の点について町長の見解を伺いたい。</p> <p>(1) 国、企業との手続きなど、本件は全て完結したのか。</p> <p>(2) 国のスタンス、意見はどうであったか。企業からの協定破棄の正式文章はあったのか。</p> <p>(3) 手続きの不備の内容はどういうことか。</p> <p>(4) 本決議をどのように捉えているのか。</p> <p>(5) 信頼回復に向けた取り組みをどのように行うのか、また行っているのか。</p> <p>(6) どのように反省し、どのように責任を負うのか。</p> <p>----- メ モ -----</p>		

質問番号	氏名	質問事項
6	春日隆司	(一括) 令和2年度の執行方針について
<p>1 移住政策について、この5年間の転入者は807人、転出者は825人（人口の25%）。前5年間と比較（人口比率補正）してみると、①非常に流動化が激しく定住化されていない、②生産人口の減少が大きい（特に林関係）、③高齢者の流出が多いなどの特徴がある。</p> <p>公費投入に見合う政策効果が発現しているか、数値や実態からヒヤリング調査や分析などをすると疑問が生じる。</p> <p>そこで、次の点について町長の見解を伺いたい。</p> <p>(1) 持続可能で強固な森林共生社会の基盤づくりのため、単に「移住してください。」ではなく、住み続けられるまちづくりを目指し、明確な移住政策の理念、方針に基づく実行が必要ではないか。</p> <p>(2) 移住してきた方や町民が起業・事業化するための支援体制はどうなっているか。</p> <p>(3) 相当数いる移住者の転出要因（ふれ込みと実態相違）をどう捉えているか。</p> <p>2 会計年度任用職員制度導入にあたり、次の点について町長の見解を伺いたい。</p> <p>(1) 厳しい町財政の影響があるのか。</p> <p>(2) 町負担増額と国からの財政措置額はいくらか。</p> <p>(3) 解雇、雇止、手当等の負担が無いよう空白期間設定、期末手当支給の一方で給料・報酬の削減、短い勤務時間の設定など任用抑制はないか。</p> <p>(4) 生産施設の任用職員の公平性を担保できるか。</p> <p>(5) SDGsの観点から、誰一人取り残されず、生き生きと働くことができ、正当な報酬を得られるよう適切かつ円滑に移行されるか。</p> <p>----- メ モ -----</p>		

質問番号	氏 名	質 問 事 項
7	小 原 仁 興	(一括) 令和2年度町政執行方針について
<p>(1) 令和2年度の基本方針に「積極的な情報公開と町民の理解」を掲げており、明文化し掲げる以上、今までと違うアプローチで情報公開をするものと思われるが、どのような形で町民に情報を開示するのか伺いたい。</p> <p>(2) 執行方針では「自ら考え、自律し、提案できる自治体」がこれからの局難を乗り切るとの事である。これはトップダウンからボトムアップに移行することを示すものと思われるが、このような形へ転換するための工程を伺いたい。</p> <p>(3) 地域防災マネージャーの配置により、自助・互助・共助（一義的には町民同士が助け合う）の防災意識の向上をすとの事であるが、今後、地域防災マネージャーが常駐することによる機能と効果を伺いたい。</p> <p>(4) 農業振興は極めて重要との認識であるが、本町のスマート農業推進は施設ハウスに限定したものであるように思われる。大畑を管理する酪農家や耕種農家においても天気の合間を縫っての作業は、なかなか天気が安定しない昨今の気候と人手不足において今や1日のロスは死活問題に直結するほど余裕が無いのが現状である。半自動操舵など、体の負担感の軽減を促す施策が必要だと考えるが、町長の見解を伺いたい。</p>		
<p>----- メ モ -----</p>		

質問番号	氏 名	質 問 事 項
8	小 原 仁 興	(一括) しもりんドーム構想について

平成30年度より中心市街地最適住環境調査に取り組んでおり、結いの森南側の休閑地を利活用する調査を行っている。外部機関の総合研究所へ依頼をして、初年度は調査報告を基に「しもりんドームパーク構想」という提案を受けたようである。

さらに令和元年度に追加調査で同じ総合研究所に再調査を依頼しており、先日、令和元年度の成果結果を確認したところ製品納入は3月になるとの回答であったが、次の点について町長の見解を伺いたい。

- (1) 平成30年度の調査結果は令和元年度の設計にどのような投資効果を生み出したのか。
- (2) 令和元年度の追加調査において、当該総合研究所からの調査結果・提案は現時点で得られているのか、得られているならどのような成果結果であったのか。
- (3) 設計費用に総額500万円が投じられ、投資金額に見合う結果が得られるためにも有効な活用が望まれるが、今後どのような形で公開し、現実のものとしていくのか。

----- メ モ -----